

山口県農協青壮年部 ポリシーブック 2024



J A 青年組織綱領

我々 J A 青年組織は、日本農業の担い手として J A をよりどころに地域農業の振興を図り、J A 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、J A 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織ネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(平成 17 年 3 月 10 日制定)

(注釈) 本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「喜怒川 5 原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである。

委員長あいさつ

今年度より JA 山口県青壮年部委員長を仰せつかった藤岡義宏です。

ポリシーブックを作成することで、青壮年部活動の意義を再確認することと、活動目的を明確にすることで青壮年部盟友と意識共有を深めることを大きな目的としました。

また農業の担い手として、県内盟友から意見や要望を集めて提言書を作成し、農業現場の現状を山口県選出の国会議員へ提出をしました。

山口県なりのポリシーブックを作ろうというところから、現在行っている事業を確認することから始め、これから一步步ずつ積んでいくことで経験や知恵、そして情熱を次代に伝えていけるものとして活用できることを期待しています。

最後に、ポリシーブック委員会を取りまとめていただいた小橋委員長を始め、ポリシーブック作成に尽力いただきました盟友の方々には、この場を借りてお礼申し上げます。

2024 年度のテーマ

青壮年部活動の意義と楽しさを共有するために全力で取り組む

青壮年部活動をする上で、新規盟友の確保や活動の充実に向けて活動を行っていますが、マンネリ化し、活動の意義を実感しにくい部分があります。また、各種イベントへの労力も多くかかり、活動の取捨選択や労力分配を考える必要があります。

盟友に改めて青壮年部活動の良さを感じてもらうために、今年一年間の活動を全力で取り組み、その活動の意義や楽しさを再確認し、山口県版ポリシーブックの作成を通して、将来に向けた活動の規模や内容を精査したいと考えています。

また、取り組みたい内容として SNS の活用があります。活動の広報としての役割だけでなく、イベントの内容を盟友同士で共有することで、新たなアイデアや活動の幅を広げていくツールとして期待したいと思います。

ポリシーブック 企画書

イベント名

婚活（農業青年と恋活）

1. 日時

令和6年8月3日 14:00～18:00

2. 開催場所

JA 山口県本所 4階ホール

3. 主催

JA 山口県青壮年部 婚活実行委員会

4. イベントを開催する目的

農業男性（盟友）の恋愛パートナーを探すサポートをする

5. イベントを通して解消したい課題

- （1）未婚で、パートナーのいない盟友が多い
- （2）出会いの場が少ない

6. イベントの内容

ケーキバイキング

7. 備考

アンケートや反省については、婚活実行委員会が作成したものを転用

アンケート・反省まとめ

目的の達成度 カップル成立数8組（参加者：男性23名、女性18名）

令和6年度婚活イベント振り返り													
	令和6年度 振り返り	令和7年度 申し送り事項											
実行委員の立ち上げ (実行委員長の決定)	・立ち上げ時期は問題なかった。立ち上げ→内容決定→準備までは4～5か月ぐらいかかるため、年度初めもしくは前倒しでの実行委員会立ち上げは必要 ・実行委員会議は少なめに越したことはないが、結局月1度の会議は必要となる ・遠方よりの会議参加は難しい場合があるため、WEB会議の活用はあっても良い。しかし話の中心は現地会議室となるため、割って入りづらいこともあり、話題をふりが必要となる ・交通費の支給があるため、助かる	(R5～) 3月上旬の新旧役員会にて実行委員長の任命を行う（県副委員長が望ましい） (R5～) 前年度実行委員長は次年度第1回婚活実行委員会へ参加し、申し送りを行う (R5～) 実行委員長任命後に実行委員長にて開催時期から決定した方が計画を立てやすい											
イベント開催時期	・参加者アンケートでは10月～11月の開催希望が多かった ・年度初めに実行委員会を立ち上げる場合は逆算すると8月以降の開催とせざるを得ない ・ケーキバイキングに限るが、夏の開催になると冷蔵庫・冷蔵庫・大量の氷など必要なものが増える	・冬季では寒いため、屋内での開催内容に絞られてしまうが、真夏でも必要以上に冷蔵庫・氷などの準備がいるようになるため、アンケート結果にもあった、10月～11月での開催にしてみてもどうか？（県青壮年部行事や農繁期で忙しい時期とはなるが…）											
イベント内容	・当日キャンセル等で欠番が出た場合は番号間違えを減らすため、必ず欠番の告知を行う。また、気になるカードやマッチングの際にも、相手の顔と番号が一致しないことが多いので、男女一ずつ点呼をする ・最後のマッチング集計には時間がかかるため、最低でも15分～20分は必要となる ・風船でのアーチ等飾り付けは参加者からも講評だった ・農産物のベスト加工であれば、ケーキへ入れ込むことも可能であった ・ケーキバイキングについては女性受けや集客も良く、成功だったのではないかと ・ふく太郎・ふく子については例年以上に効果があったように思えた	(R5～) 農業体験型、バスツアー、農業を活かせるイベントが良いのでは？（他イベントとの差別化） (R5～) 他団体との連携を行ってみてもよいのでは（費用軽減・参加者確保のため） ・農業PRとしては弱くなるが、青壮年部のカップル作りを目的とするのであれば、女性集客力の高かったケーキバイキングは効果的である。											
タイムスケジュール	・マッチング集計の時間が最低でも15分～20分かかってしまう ・ケーキブースでは事前対策もあり、列は出来るが人手が足りないほどの混雑はなかった ・スタッフ人数については適正だった ・アンケートでは自己紹介の時間が短いとの意見があったが、スタッフとしては一人2分程度のままでよいのではないかと考えている	(R5～) 参加者が当日の受付ギリギリに来られる場合もあるため、プロフィールシート記入のための時間を別途設けた方がよい ・マッチング等集計時間はどうしても20分程度かかってしまうため、その時間を持て余さないような企画が必要となる											
参加者募集（広報）	・インスタ・ライン広告は今回も有効であった 女性19人中/6人 ・広報誌も昨年より記事を大きく掲載したためか、効果があった 女性19人中/4人 ・もってけは例年通りの効果だった 女性19人中/2人 ・集計時間やイベント効率を上げるためにも、男女15名ずつの募集がベストなのではないか？ ・参加者募集スタートは開催1か月前ぐらいが丁度良かった ・当日キャンセルが多い ・男性参加募集が大苦戦し、普通の依頼だけでは集まらず、「参加者が足りないから参加してほしい」で初めて集まる傾向が強かった ・もってけ広告分の費用をインスタ・ライン等に回してもよいのではないかと？	(R5～) 募集にかかるチラシについては、早めに実行委員会での協議決定が必要。また原稿締め切りも早い - ため、メインとなるイベント内容の決定は早めに行う方がよい ・参加者募集については開催1か月前ぐらい丁度よい											
参加条件	・手伝っていただけるのは大変ありがたいが、未婚スタッフの参加についても考えていかなければ… ・男性参加者が思ったほど伸びなかった	・あくまで女性参加者の集客が優先とはなるが、男性集客についても検討が必要											
その他	・本所開催とする場合は駐車場係が5名程度必要（地理が分かりづらい） ・食べ物提供の際は、固めの紙皿の方が実用性が高い ・アイスコーヒーを出す場合はボトルコーヒーにする（粉は溶かす時間がかかる） ・ホットコーヒーを出す場合は耐熱紙コップにする（プラスチック容器は熱で溶ける） ・カットケーキではサイズが大きかった ※プチガトーサイズがベスト ・ケーキ以外はかなり余った（ロールケーキ・ゼリー・パン） ・ケーキに甘い飲み物は合わない ・ケーキ・パン・飲み物・氷はかなりの量余ってしまった…												

ポリシーブック 企画書

イベント名

ゆめ花マルシェ 2024

1. 日時

令和6年10月26日 13:30～18:00（前日準備）
10月27日 8:00～18:00（イベント当日）

2. 開催場所

山口きらら博記念公園

3. 主催

山口きらら博記念公園活性化協議会（山口市）

4. イベントに参加する目的

- （1）消費者に鳥獣被害を知ってもらう
- （2）青壮年部の活動を認知してもらう

5. イベントを通して解消したい課題

- （1）鳥獣による被害が知られていない
- （2）青壮年部活動が認知されていない

6. イベントの内容

- （1）しし汁の販売
- （2）SNS の活用

7. 備考

- ・しし汁の販売を行う際に、SNS（Instagram）にて JA 山口県青壮年部のアカウントフォローで値引きを行った。
- ・ゆめ花マルシェ 2024 の開催時間は令和6年10月26日（土）、27日（日）10時～16時まで。

アンケート・反省まとめ

目的1 消費者に鳥獣被害を知ってもらう

目的の達成度 2.2 / 5点満点

工夫できた部分や方法について

- ・実被害の写真やデータなどを掲示、資料の配布などを行えばよかった
- ・事前に SNS の投稿を活用できればよかった
- ・お客さんとのコミュニケーションの中で伝える努力をする

将来同じようなイベントを企画した時のアイデア、アドバイス

- ・事前にチラシやPOPを準備する。
- ・被害のあった写真やデータなどを掲示する。
- ・お客さんとのコミュニケーションを積極的に図る
- ・有害鳥獣の行政担当の部署まで巻き込んでコラボしてイベントを盛り上げたらよいのでは。

目的2 青壮年部活動を認知してもらう

目的の達成度 4 / 5点満点

工夫できた部分や方法について

- ・青壮年部のインスタフォロー登録で割引をしてフォロワーに誘導したのはよかった
- ・一目で青壮年部だとわかりにくかった

将来同じようなイベントを企画した時のアイデア、アドバイス

- ・共通のユニフォーム(のぼり、法被など)があるとよい
- ・SNSをより積極的に活用していくように運用方法の見直しを含めて考えていけたらよい。

イベント全体を通して感じたこと

- ・他統括の盟友や他部署の方々とのつながりづくりができた。
- ・収益を得るイベントができてよかった。
- ・シシ汁を食べてもらった人には好評だったが、思ったより売れ行きが悪かった。

ポリシーブック 企画書

イベント名

現地視察研修会・やまぐち農民塾

1. 日時

令和7年1月18日 13:00～17:00

2. 開催場所

有限会社グリーンハウス・ネギ三昧包装センター（視察）
JA 山口県 宇部統括本部（講演会・農民塾）

3. 主催

JA 山口県青壮年部

4. イベントを開催する目的

- （1）団体にとらわれず、県内農業者との交流を通して山口県農業を盛り上げる
- （2）先進的な農家を視察することで、県内農業者のレベルアップにつなげる。

5. イベントを通して解消したい課題

県内農業者同士で、交流する機会と場が少ない

6. イベントの内容

現地視察研修会：ネギ包装センター、青ネギ圃場の視察
農民塾：講演会（有限会社グリーンハウス会長 松村 正勝 氏）・グループワーク

7. 備考

- ・4Hクラブ、百姓錬磨の会、農業大学校社会人研修生に参加いただいた。
- ・グループワークのテーマ「150万円予算でできる、架空のイベント企画を考える」
- ・イベント後、懇親会を開催した。

アンケート・反省まとめ

目的の達成度

他団体との交流が図れたと思うか	平均 4.13／5 点満点
現地視察研修会	平均 4.47／5 点満点
講演会	平均 4.56／5 点満点
グループワーク	平均 3.93／5 点満点

工夫できた部分や方法について

- ・グループワークの時間(50 分)が短かった。

将来同じようなイベントを企画した時のアイデア、アドバイス

- ・イベント内容を絞って、農業者同士の交流をメインにすればよかった。
- ・希望視察先(県内で売上が高い道の駅、くまもと農家ハンター)
- ・希望講演家(グリーンリーフ澤浦さん)
- ・親睦スポーツ大会
- ・開催希望時期は1 月が7 割以上だった。

ポリシーブック 企画書

イベント名

JA 山口県役員と JA 山口県青壮年部との意見交換会

1. 日時

令和7年2月20日 15:00～17:00

2. 開催場所

JA 山口県本所 4階ホール

3. 主催

JA 山口県青壮年部

4. イベントを開催する目的

JA 山口県との相互理解を図る

5. イベントを通して解消したい課題

JA 山口県と話し合いの場をもつことで、意見のすり合わせや JA への理解を深める

6. イベントの内容

グループワーク（テーマ：山口県農業の未来と担い手の確保・育成）

7. 備考

- ・よい意見につなげていくために、ポジティブに話せるテーマを定めた
- ・意見交換会后、懇親会を開催

アンケート・反省まとめ

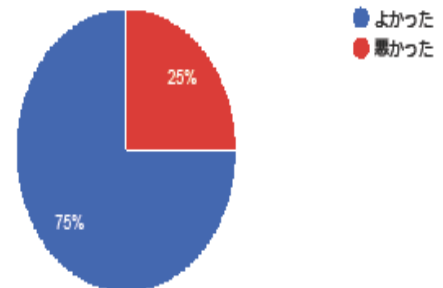
① JAとの相互理解が図れたと思いますか？

5件の回答



② グループワークはいかがでしたか？

4件の回答



③ 質問②の理由を教えてください。

- ・悪くは有りませんでしたが今後、現実的に何かに発展する様な気がしませんでした、今後、お互いを認識しあい信頼関係を構築して話し合いするためには良い会だったと思います
- ・答えの難しいテーマだったので抽象的な意見交換になった
- ・役員方の、昔話が聞けた
- ・グループワークのやり方自体を事前に協議してこの時間にのぞめるとなおよかったかなと思いました。
- ・縛られすぎないテーマによって、JA役員の方それぞれの意見の違いであったり、主張したい部分が感じられて良かった。

④ 今後テーマにしたい内容はありますか？

- ・次回はJAへの要望や一緒に何に取り組めるかの実現可能な事に対しての話し合いが出来たらと思います
- ・グループワークより対面式の意見交換でも良い
- ・食農教育
- ・JAの活動で青壮年部が関われる部分や期待されている部分を共有すること。

令和6年度 JA 山口県青壮年部 要望書

はじめに

山口県農業の維持、継続にあたり、現状のままでは農業生産が衰退する危機が高まっている。鳥獣被害の増加や広範囲化、耕作放棄地や活用が難しい圃場の運用方法に活路が見出せないことに加え、人口減少や高齢化によって労働力を確保できないことが拍車をかけるなど、課題は山積している。また、資材、燃油、肥料、飼料の高騰、雇用労賃の上昇に価格転嫁が追いつかないことが常態化し、農家の経営が成り立たない状況にある。

一方、農業には多面的な機能が求められており、環境保全や地域の特色ある文化の維持が不可欠である。2024年8月には品薄感から米価が急騰し、改めて農畜産物の安定供給がいかに大切であるかを、生産者、消費者に関わらず、国民が再認識することとなった。

JA 山口県青壮年部は、農業経営を真剣に行う盟友が集まる団体として、研修、勉強会を通しての知識の研鑽や共有、新規就農者を含めた農業者相互のサポートなど、県内農業者の営農を後押しできるよう日々活動を行っている。

極めて厳しい農業を取り巻く環境の中、明日の農業を担う農業者の集団として、営農する農家の声として、要望をまとめ、提言する。

要望事項

1 鳥獣被害について

- ・ 鳥獣被害による収益の低下に、対策費用の投下が加わるダブルの問題が顕在化している。山口県の被害は近年減少傾向（※1）となっているが、3億円を超える被害額は膨大である。被害を最小限に抑えるために、鳥獣被害について情報発信や地域ぐるみの対策を強化拡充されることを要望する。
- ・ 狩猟に携わるリスクや労働量に対して、一定の報酬を担保し、今後新規の狩猟についても経営部門の一つとして確立されるよう支援を要望する。
- ・ 狩猟で得た野生鳥獣の資源活用を促進するため、鳥獣被害防止総合対策交付金等補助の拡充や、ジビエや加工品への利用が円滑に進むよう加工施設や加工業務に従事する人材への助成を要望する。
- ・ 鳥獣被害の軽減に不可欠な防護資材の高騰に対して、補助の強化や条件の緩和を検討されたい。また高齢化や過疎化により防護設備の設置や維持管理が困難な状況にあることを鑑み、地域計画など活用した効率的な運用や維持管理の支援を要望する。

2 適正価格の実現に向けて

- ・ 生産、流通コストの高騰を踏まえ、再生産に配慮した適正な価格形成の実現に向け、各品目の取引実態、課題等をふまえた検証をすすめ、法制化を見据えて対策を講じられたい。

- ・生産資材や燃油価格の高騰、高止まりに対して、長引く農業経営への悪影響を緩和できる補填措置の継続、拡充を図るとともに、今後の動向を踏まえ、必要に応じ激変緩和で対策等の継続、拡充を要望する。

3 担い手農業者の拡充、支援に関して

- ・新規就農者の経営支援や離農者の減少対策として、新規就農者育成総合対策などの予算を確保し、新規就農者の経営安定を図られたい。
- ・新規就農者のうち、新規参入者と新規自営農業就農者において助成要件や金額に差がある場合があるが、所有する施設や機械の老朽化など状況が様々であるため、現状に即した補助となるように条件の緩和に加え、公平性を担保されたい。
- ・農業の人材を確保するため、公務員が副業として農業経営を行うことの要件緩和を要望する。

4 地域計画について

- ・市町が中心となって策定する地域計画や、再生協議会等が中心となって策定する水田収益力強化ビジョンの着実な実践による計画的、戦略的な産地づくりを推進するため、飼料用米等も含めた作付転換にかかる万全な予算の確保を要望する。
- ・水田活用の直接支払交付金の交付対象となる5年間の水張りルールに関して、多くの農業経営者から疑問や不満の声が上がっている。現場への丁寧な説明と、飼料作物、施設栽培、賃貸借条件などの実態にあった制度運営を講じ、土地利用者が変更となった場合には条件が復帰するなど、柔軟な対応ができるよう改善されたい。

5 農地の維持、管理について

- ・人口減少や高齢化・担い手不足により農村の機能維持が難しくなっており、耕作放棄地の増加や作付面積の減少、農地の多面的機能の低下等が危惧されている。将来にわたり農業生産を安定して行うため、農地の維持管理支援を強化するとともに、地域計画を有効的に活用し、無理のない農地運用を図られたい。

出典 ※1 令和5年度の野生鳥獣による農林業被害の発生状況と傾向について

令和6年11月1日
山口県農協青壮年部
委員長 藤岡 義宏

ポリシーブック 2024～2025 に向けての申し送り

- ・目的・課題の策定については役員会での決定が必要であり、役員会の中で決めなければ、後から確認することは非常に困難であった。
- ・ポリシーブック委員会の役割を明確にすることが必要
→ポリシーブック委員会は、役員会で企画した内容について、PDCA や5W1Hが明確であるかを確認し、明文化することが基本的な業務であると考えます。今年度については役員会との役割分担が曖昧な部分があり、作業が後手になる一因となった。そこで、基本的な流れとして、

- ① ポリシーブック委員については、役員会の中でフォーマット（ポリシーブック企画書として作成済み）を確認し、役員会の中で確認作業を行う。
- ② 役員会後にポリシーブック委員会を開催し、①の内容を精査し明記したものを、役員会グループラインへ共有をする。必要であればアンケートも作成し、役員会グループラインにて確認を行う。
- ③ 反省、振り返りについてはアンケート結果をあてる。役員会や実行委員会にて反省があった際には、アンケート結果を提供できるようにし、その反省も織り込み企画書の完成とする。

これらの流れを理解し、遅れずに情報を集めることが必要だと感じた。また、適宜役員会にて説明を行い、ポリシーブック作成のため必要であることを理解してもらう必要がある。

- ・アンケートについては、Google のアンケートフォームを活用することで、取りまとめの時間短縮へ非常に効果的であった。多くのアンケートを回収するために、イベント後にはアンケートを記入する時間を設けることが必須であった。
- ・作業が後手にならないように、スケジュール作成、役員会より前に提案する準備を行う方が良い。

→リモートでの委員会などを活用する方が良い（2024 では未実施）。必要な時に準備や共有を行うことで効率よくポリシーブックの作成でき、さらに委員の負担を少なくできるのではないかと。

- ・ポリシーブック委員会を円滑に進めるためには、協議内容を PC に随時打ち込み、スクリーンにて映すことによって、共有しながら会議を進められるため、効率が良い。（リモートにも有効）
- ・次期ポリシーブック委員会の構成員については、毎年の更新がスムーズにできるよう、旧ポリシーブック委員を採用することが望ましい。もしくは、より詳細な申し送り、フォーム作成が必要なのではないかと。

→ポリシーブック委員へ県役員以外の盟友の参加も可能。（ただし、役員としての経験がある方や、県のイベントによく参加される方）。県役員以外の盟友がいる場合にも、リモートが効果的である。

来年以降のポリシーブック作成手順（参考）

役員会	ポリシーブック委員会	事務局
総会、活動予定の確認（総会後の会議） 一年間の目標の設定	年間の活動予定から、企画書の策定期間や内容を定める 過去のポリシーブックなどから、今年のイベントに利用できそうな情報を採り、役員会に提案する。	必要な人へ過去のポリシーブックの開示
年度末に向けて、一年間の目標の所感をポリシーブック委員会と協議する（委員長、三役？）	所感をまとめ、ポリシーブックに内容を落とし込む	適宜、ポリシーブック委員会で決まった内容を役員会議の資料へ添付
ポリシーブックの承認	完成したポリシーブックを役員会へ提出	ポリシーブックの保存
イベントの企画 イベントの目的、課題、内容の検討 イベント内容の決定 アンケート内容の決定	企画書の作成開始 イベントの目的、課題が定まっているかを確認し企画書へ（曖昧な場合は役員会へ確認する） アンケート内容について、目的や課題を評価できるかを確認。 目的、アンケート内容に即したアンケートの作成	アンケートの配布や、集計などをポリシーブック委員会と取り決め
イベントの実行、アンケートの回収	アンケートのまとめ、反省会に利用	
反省会の実施（改善点や来年に向けて）	反省会での意見を企画書にまとめる。反省会がない場合、アンケートを基に評価を行う	
企画書の内容確認、承認		

政策提言書について 時期 11 月初めに議員要請活動あり (4月～8月くらいまで) 盟友からの要望をまとめる 県青壮年部として、共助部分の深堀をする (9月中旬) 政策提言書(仮)の内容承諾 (10月下旬) 政策提言集を承認	(9月初旬) 役員会で出た意見をまとめる 意見内容政策提言書(仮)を作成する (9月下旬) 政策提言書清書 (10月中旬まで) J Aに内容、表現の確認、役員会に提出	
---	---	--

山口県農協青壮年部 事務局

【住所】

〒754-0002 山口県山口市小郡下郷 2139 番地

山口県農業協同組合 総務管理本部

総務部 暮らしの活動課

TEL : 083 (976) 6812 FAX : 083 (976) 6832

E-mail : 12-k.soshiki@ja-ymg.or.jp